

広島大学大学院
放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラム
第10回ショートフィールドビジットを実施しました

平成27年10月16日（金）から17日（土）に、本プログラム学生及び教職員の合計9名が、福島県相馬市・南相馬市を中心として、「Sense Fukushima～福島の現状を捉える～」をテーマに、第10回ショートフィールドビジットを実施しました。

初めに、16日の夕方に、参加者全員が福島に集まり、このショートフィールドビジットの目的や見学先などについて情報を共有するための事前オリエンテーションを行いました。



オリエンテーションの様子

17日には、福島市から南相馬市に移動する途中の車内から除染を行っている田畑や除染廃棄物が高く積み上げられている仮設置き場などを見学し、その後相馬市相馬港湾に向かいました。相馬港湾では、東日本大震災による津波被害からの復旧と更なる発展に向けての事業について学習しました。



飯舘村 除染の様子



相馬港湾の復旧についての学習

午後からは南相馬市に移動し、南相馬市立総合病院において、平成23年3月11日の震災直後から現在までの南相馬市の医療面での現状や課題などについて学習するとともに、ホールボディカウンタを用いた内部被ばく検査の現場を見学しました。



南相馬市立総合病院
乳幼児用ホールボディカウンタの見学

太田川河口では、いまだ強く残る津波被害の影響を、そして小高駅周辺においては避難指示解除準備区域の見学を行いました。小高駅見学後には、平成26年9月15日に通行規制が解除された国道6号線を南下し、福島第一原子力発電所近郊の緊迫した現状や車中での空間線量の計測等を行いました。



太田川河口の見学

行程終了後には、今回のショートフィールドビジットの振り返りを行い、学生からは、「福島県に来たことはあったけれども、今回の行程で、いまだに残る津波被害の現状や放射線の線量などについて初めて自分の目で見る機会を得て有益だった。」「前日のオリエンテーションで、1年前や2年前の写真を見たうえで行程に参加することで、以前の状況と現状を比較することが出来た。」などのコメントがありました。

2日間の見学等を通して、放射線災害復興におけるグローバルリーダーを目指すためには分野横断的学習が重要であることを改めて認識し、今回初参加したプログラム新入生にとって非常に重要な機会となりました。